

3 研究のまとめ

(1) 成果

- ・西横野小スタンダードである「めあて」「見通し」「自力解決（自分の考え）」「集団解決（友だちの考え）」「まとめ」「振り返り」による授業展開を発達段階を踏まえて徹底したことにより、授業の流れが児童に身に付き、児童が主体的に学習するようになってきた。また、学習事項を活用するためのこととして身に付けることができるようになった。

- ・ノート指導の一つとして見開き2ページに取り組み、ノートの文字数と板書を一致させたことにより、児童にとって写しやすく、分かり易いノート指導ができた。

- ・西横野小スタンダードによる授業により、思考の流れ、まとめ、振り返りがノートにしっかり記入されているので、児童にとっても親しみと信頼のあるノートになり、活用するノート作りとして有効であった。さらに、大切であると思ったことを自らノートにメモする児童も高学年を中心に増え、学ぶ意欲や態度を高めることができた。

(2) 課題

- ・児童主体の授業作りとして、ノート指導に取り組んだ本研究の成果を今後も生かすため、見開き2ページの難しさを踏まえて工夫・改善し、校内での共通理解や家庭との連携を図る。また、小中連携により、9年間を見通したノート指導を追究する。

- ・課題解決のための見通しをもつ場の改善、及び児童一人一人に応じた自力解決のための支援・指導の追究により、学ぶ楽しさ、満足感、充実感、達成感を味わえる授業づくりに取り組む。